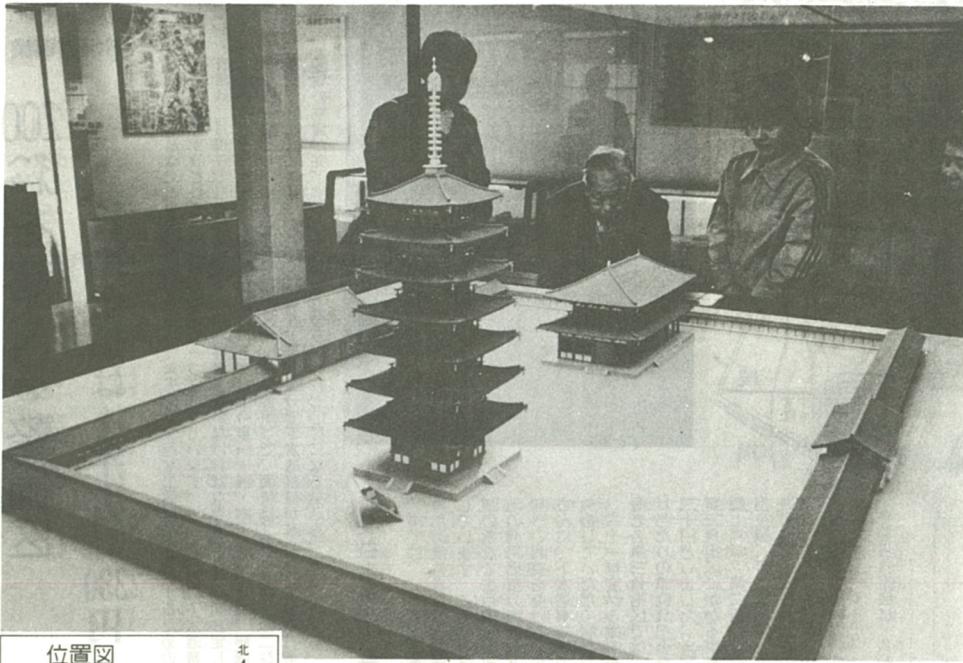


広報えひな

編集・発行
海老名市役所秘書広報課

〒243-04
神奈川県海老名市国分155
0462) 31・2111



往時をしのばせる相模国分寺の復元模型。中央が池田武治さん。(右に中門、左に講堂、内側に七重の塔と金堂)



相模國分寺の伽藍（がらん）配置は諸國の國分寺の中でも珍しい法隆寺式です。法隆寺式の特徴は、回廊内部の西に塔、東に金堂が建てられてゐることであります。他の寺の多くは塔が回廊の外にあり、中宮、金堂、講堂と一直線上に配置される國分寺式といわれるものです。

模型は、手前に中門、中心部左に七重の塔、中心部右に金堂、奥をつなぐ回廊があり、中門ついでに東西に金堂と金堂を囲んでいます。この外の僧坊や鐘楼、食（じき）堂など、北建物や海老名中学校あたりにあったといわれている南大門は、「調査が不十分なため、含まれていません」。

高さ十六メートル、法会を開く場であり僧の研修の場です。回廊、煉瓦は東西百六十㍍、南北百二十㍍で、材質は主要部がヒノキ材で、根屋のかわらなどがボリエスティル樹脂、塔の上に付く相輪が真ちゅうでできています。

製作は京都の専門業者が約一年かけて行いました。じつくり

め、活字をいまま
でより、一回り大
観察するにエンタシスの柱、奈
良時代の柱の特徴である天頂部
のまるみ、三手先（みてつき）
といわれる屋根を支える複雑な
組木など模型の精巧さがわかり
ます。
製作費は千七百八十万円です。

たくさん

市歴史・文化財のシボル的
存在である「相模國分寺」の復元工事
模型が完成しました。これは古建築
第一人者である大岡実氏が設
計し、それにもとづいてつくられ
た百分の一の精巧なもので、国
分寺史跡地の一角にある温故館で
三月二十七日から一般公開してい
ますので、ご覧になつてください

「相模国分寺」の復元模型が完成

精巧わむの伽藍

増ページ
大活字に

紙面を充実

情報量も
たくさん

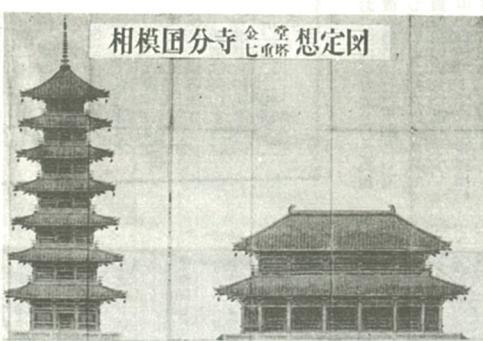
きい九ポイントの
活字にしたこと
と、市民から市民

きい九ポイントの活字にしたことと、市民から市民へ伝える「みんなの伝言板」などのコーナーを増やしたためです。

国分に生まれ、綾瀬市教育長を務めた後、郷土史研究に力をそいでいる池田武治さん（国

分
79歳)は復元模型を見て次
のように感想を話しています。
「精巧な模型ができて、いま

在温故館に展示してあります
が、模型は戦時の混乱で紛失
してしまいました。



大正4年につくられた七重の塔と金堂の絵図面。この資料には、礎石の位置図や簡単な建築考証も付されている（市教育委員会所蔵）

大正時代にも製作

水の「伝説が起」るのも無理ない
と思います」

きたものより鮮明なイメージが
わいてきますね。大岡先生の説
計に忠実につくられています。そ
うですが、美しさ、壯麗さにびつ
くりします。これなら尼の泣き



「きれいな花を咲かせね」と声
をかけられることが何度も
あります。花を咲かせたいな
ひとと知り合いになれるとい
う花造りの楽しみのひとつ
です」と話すのは、さつき住
宅老人会「さつき会(中村賀
治会長・会員33人)」の人たち。
さつき会は、昭和五十七年
に親子で始めたことで、
春は会員にとって一番楽し
い季節。種まき、株分け、雜
かい側歩道にある花壇(だん)
へ

